

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育ルームりんごの木北園教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 14日		～ 2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2025年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	有資格者(公認心理師・臨床心理士・言語聴覚士等)の配置	子どもの状態像を、より客観性・妥当性・信頼性高く把握するため、フォーマルアセスメント・インフォーマルアセスメントの双方を組み合わせる。	アセスメントによる結果から、強みはどこか、どこに苦手さを抱えているのか職員全員が分析・解釈できるよう研修やOJT等を通して研鑽を積む。
2	アセスメントに基づいた個別支援計画の作成	収集した情報から子どもや保護者の置かれている状況や直面する問題を分析し、目標設定につなげる。	保護者や関係機関からの聞き取りを確実に行うこと、明確な目標や視点を持って実際の行動観察を行うことで、支援方法はより具体的に、現状把握はより包括的に捉える。
3	集団療育・個別療育との連携	常勤職員は、療育ルームりんごの木と協同し集団療育にも携わっているため、子どものニーズに合わせ成功体験を多く経験できる個別療育と、他の子どもたちとの関わりを通じて社会性や協調性を身につける集団療育の両方の視点を持ったプログラム立案に寄与している。	個別療育・集団療育どちらか一方だけに携わる職員については、そのことが子どもの不利益に繋がらないよう情報交換や連携を密に行い支援の質の維持向上を保障する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備・環境面	一部アコーディオンカーテンを使用して個別療育環境を設定しているため防音が完全ではない。	聴覚/視覚からの刺激が入りやすい子どもにはその特性に応じた合理的配慮(例:部屋の交換、パーティションを利用した動線の確保と制限等)を行う。
2	集団療育未実施	北園教室自体は集団療育を実施していないため、北園教室のみに在籍する非常勤職員は担当する子どもの集団場面の様子を直接見ることができない。	職員全体ミーティングの機会を設定し情報共有に努める。ミーティングに参加できない職員には議事録や直接伝達により詳細な情報を把握するよう促し、職員によって把握内容に差が生じないように図る。
3			